

「学校に行きにくくなっている子どもや親には居場所や相談できる場所がない」との住民の方の発言がきっかけとなり、しんどさを抱えている子どもたちや保護者の居場所づくりとして、平成27年3月から「フリースペース」モデル事業が始まりました。学校やスクールソーシャルワーカー、相談員等の働きかけで子どもと家庭と地域がつながり、高齢者施設等の社会福祉施設を子どもを支える夜の居場所として活用するという、分野を越えたまさに「滋賀の緑」らしい取り組みは、県内で少しずつ広がりはじめています。今回は、その事業にいち早く取り組んでいる3つのフリースペースの管理人、子どもとかかわるワーカーの皆さんの声をお届けします!



沼賀の緑 創造実践センター 事務局長
居場所づくり小委員会担当
森井 良磨

フリースペース カーサ

平成27年3月スタート
毎週火曜17:30~21:00
小学生4名、中学生1名、未就学児1名が参加。

フリースペース かなで

平成27年7月スタート
毎週金曜17:00~20:00
小学生1名、未就学児1名が参加。

フリースペース せせらぎ

平成27年9月スタート
毎週火曜17:30~20:45
小学生3名が参加。

まずは「今」の子どもたちに寄り添うことを大事にしたい。僕は近所のおっちゃんとして、いつまでもつながる場所であり続けたいですね

子どもの現場のことは専門外で知らないことばかりでしたが、さまざまな方にお話を伺う中で「学校に行きにくくなっている」とことごとく言っても、「学校に行きたくない!」子ばかりではなく、「行きたい」と思っている、家庭の事情で行けない!子もいるということを知りました。小委員会で検討を重ね、そのような思いを抱えている子どもたちが週に1回安心して来られる夕方から夜の居場所をつくらうと決めました。まずは自分の施設でやってみよう!と、3月からスタートしました。

ここは、子ども一人ひとりが週に1回、大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんたち「自分のためにしてくれる大人」と子どもらしく過ごすことができる場所です。初めは小中学生の子を対象に思っていました。家に迎えに行ったときに小学生未満の下の子が切なそうにこちらを見ている姿を見て、学齢期未満での受け入れも開始しました。この活動は制度でやっているわけではないので、目の前の子ども

のために必要と思ったことをできる範囲で実践できるのがいいですね。ゆくゆくは親御さんの居場所や利用者さんとの関わり等、さまざまな展開の可能性を考えていますが、まずは「今」の子どもたちに寄り添うことを大事にしたいと思っています。

現在来ている中学生のひとりが、「私は卒業しても、毎週火曜日にはここに来る」と言ってくれました。こちらから声をかけるつもりだったんですが、先に自分から言ってくれて…感動しましたね。そうやって、「いつまで」と期間を決めるのではなく、ここは「ずっとつながれる場所」としてあり続けたいですね。

子どもたちにとって、僕はただの「いつでもいるおっちゃん」。僕も子どもたちを特別な子とは思っていないし、ひとりの近所のおっちゃんとしてジャボン玉や花火等、一見何でもない子ども時代の思い出をつくる、一緒にすごせる自然な場所であることを大切にしたいですね。

日比晴久 さん「居場所づくり」小委員会 リーダー
(特別養護老人ホーム カーサ月の輪 施設長/社会福祉士)

フリースペースカーサ 管理人

阪神淡路大震災がターニングポイントとなり、自動車部品の営業職から介護職に転職。「被災者が日に日に増えていく中、その近くで部品の供給に追われている状況に違和感を抱いたんです。分かりやすく人の役に立ちたいと思ったんです!」転職後は仕事帰帰宅すると「顔が変わった!いい顔してるぞ」と家族に言ってもらえたことがこの仕事を続ける後押しになった。「いい歳期だった」と思ってもらえることが介護職のやりがい。「固定観念にとらわれず、どんどん新しいことに挑戦していきたいですね。」

みんなのフリースペース

フリースペース カーサ

特別養護老人ホーム カーサ月の輪

フリースペースカーサの過ごし方

~子どものやりたいことに寄り添いながら~



社会福祉法人幸寿会
特別養護老人ホーム カーサ月の輪(大津市)

17:30~

持ってきた宿題ややりたい遊びに取り組みます!
この日は施設のテラスでバドミントン!
施設のなかでは風船バレーで大賑わい!

子どもと大人1対1のかかわりが基本。その子の居場所になることを大切にしています。



18:30~

待ちに待ったご飯の時間!施設のご飯はあつたかくて、栄養満点!見よ、これがアニメ盛りご飯!



夏はBBQ!
秋はハロウィン!
季節のイベントも楽しみの一つ!

19:00~

お風呂の時間!ほっこりする時間だからそたくさんの会話が生まれます!お風呂上がりは、大学生のお姉ちゃんに髪を乾かしてもらってきれいさっぱり!



19:30~

お風呂のあとのひと時!施設で余った段ボールは、おうちづくりに活用!「こんな家に住みたいな~」と大きなおうちの完成を目指しました!



21:00~

「また来週~」があいことば!みんなでも子どもを見送ります!子どもが帰ったあとは、振り回りの時間。今日のできごとや気づいたことなどを振り返ります。



子どもとかかわるワーカー
瀧 梨英子 さん

日常生活の中にある喜びを子どもたちと一緒に味わいたい

子どもと楽しくが基本です。髪を洗うとか歯を磨くとかご飯を食べるとか、そうした喜びを子どもたちと一緒に味わえたらいいと思っています。その中で次第に、自分の思っていることが表現できなかった子どもたちがいるような形で表現できるようになってきました。私の役割は子どもたちに生きる力をつけていくことだと思っています。この場所は私自身も一緒に生活する場所です。栄養のある食事ができる、入浴ができる、夜のほっこり感がある、それを感じられるところ、こんな場所が今求められているのではないのでしょうか。

子どもとかかわるワーカー 辻美帆 さん 保育士

おおらかでゆるやかに時間が流れる場所です

初めは保育園児より大きい小学生と関わることに不安もありましたが、行ってみると「フリースペース」はおおらかでゆるやかに時間が流れ、枠にとらわれず、子どもたちの好きなことを好きなようにさせてあげられる場所でした。ボランティアの学生たちがお兄さん・お姉さんの役割を担ってくれるので、私はカーサでのお母さんのような立場で子どもたちと関わっています。いろいろな立場の大人が関わってつくる居場所ののびのびとしたあたたかさを感じています。



カーサチーム